

2007 年度前期 学科教育改善委員会 (FD 研修会) 議事録

1. 開催日時：平成 19 年 9 月 27 日 (木) 10:00-12:00,13:30-15:00
2. 開催場所：S2 棟 3F 会議室
3. 出席者：安原一哉，横山功一，小柳武和，三村信男，沼尾達弥，井上凉介，金利昭，山田稔，小峯秀雄，横木裕宗，寺内美紀子，原田隆郎，桑原祐史，信岡尚道，村上哲，仁平政一 (非常勤教員)，田名部菊次郎，木村亨 (以上，技術職員)，石川比奈子 (学科事務職員)

(順不同,敬称略)

1)開会の挨拶 (安原)

継続が重要。しっかりと議論して今後に備えましょう。

2)前期学科各科目の点検と評価(1)

力学 (原田)

- ・高校の物理と数学の履修状況により若干ついてこれない学生もいたが、昨年と比較すると成績が良い。

< 議論内容 >

授業時間帯設定の工夫が必要 (接続教育、力学授業の授業順など)

数学のクラスによる授業内容を工夫してみては？

情報処理概論 (原田)

- ・情報倫理 + Web を用いた情報収集 WORD、Excel、Powerpoint の順に授業を進行させた。
- ・授業に出席して理解度を上げることによって効果を上げているが、連続した時間帯に演習時間が取れると効果が上がるが、教養時間のバンド制限上、無理な様子。

プログラミング基礎 (村上)

- ・FORTRAN を使ったプログラムを読めること。GOTO 文を繰り返して実施 (興味を引くために工夫)。
- ・成績分布は、試験傾向を変えていないが向上した。
- ・知的好奇心の満足に関しては、学生回答レベルが低かった。
- ・休み数を計算して出席している学生がいるようだ。

< 議論内容 >

- ・授業 Web を作成し、学生は自分で課題や授業資料を入手する配慮をしている。

線形代数 (村上・二瓶先生)

- ・今年の学生は、例年に比べて反応が良い (良い意味でリアクションがよい) 計算力は、例年に比べて落ちているような感触は受けている。
- ・授業は楽しくやっている。

都市システム工学序論 (安原他)

- ・レポートにより成績をつける。1 つでも未提出ならば不合格となる (不合格者 3 名: レポート未提出者)
- ・教育目標が担当教員により異なるために、成績評価が難しい。
- ・授業内容の構造化が重要と感じた。
- ・中間アンケートを取るタイミングが難しい (複数教員で担当するために)

< 議論内容 >

- ・トピックの内容を構造化することが重要。
- ・6月の時点で、教員ではなく、授業ベースへのアンケートを実施してみてもどうか？

応用地質学（安原）

- ・担当より応答なし。

応用数学（信岡他）

- ・既存のシラバスに併せて授業を行ってくださった。

数理統計（山田）

- ・昨年と比較して成績が上がった。
- ・正規分布表を使って確率をはじき出せることを重点にして授業をしている。

リモートセンシング・環境計測（小柳・桑原）

- ・演習を入れると、内容を削除する部分があるのでは？
- ・復習をかねた演習を入れる。原理原則を理解させるための演習を入れた。

構造力学（呉）

- ・必修科目であるのに11名あきらめている学生がいる。
不合格者は過年度生が多い。
- ・社会的要求は具体的に何なのか不明。

水理学（信岡）

- ・出席の数合わせをする学生がいるようだ。どのように考えるのか？
- ・式に代入した計算をすることができない。

<議論内容>

- ・建設工学演習とリンクした演習があると効果が上がるかもしれない。
- ・FDは、もう少し近い分野の人間が集まり、ディスカッションをしたらどうか。

土の力学（安原）

- ・昨年と比べると、成績が悪い方向に動いている。
- ・マイクを使って声が良く聞こえるように配慮している。
- ・中間試験のフィードバックが重要。モチベーションUPのための実験を取り入れたりする必要がありそうだ。
- ・授業の進行と、演習の進行が逆転する場合もある。その際には演習での説明を工夫している。

地球環境工学（三村）

土木計画論演習（山田）

土木計画論（金）

- ・教科書を副読本として設定し、演習も時間内に行っている。演習を多くすると、時間が不足する。
- ・授業内容を昨年度より絞り込んで、的を明確にしている。
- ・宿題を出し、コメント付きで返している。やる気のある学生はついてくる。
- ・演習の前半は、合意形成に関する演習内容で、後半は授業内容に沿った演習としている。

<議論内容>

- ・教科書の位置づけをどのように考えるか？ 同じ内容を別の角度で見たり、表現したりする物として考えている。（計算の仕方と本の読み方）

建設材料学（福澤）

建設工学演習（呉）

- ・回答は印刷物で配布する

- ・問題の回答を解説する教員と補足授業を含めている教員があり、授業の位置づけを統一する必要がある。
- ・演習の成績分布と授業の成績分布が大きく違う（構造）はどのように考えたらよいか？
- ・計算の速度が遅い。

都市システム工学製図（小柳・寺内）

- ・A2 サイズの図面の保管に苦労している。
- ・TA への不平不満が出る。
- ・製図室改善の要求がある。
- ・FD は総論的には役立った。
- ・小柳担当内容は、製図基準を理解することを踏まえて授業をしている。

< 議論内容 >

- ・学科カリキュラムの中での製図の位置づけをどうしたらよいか？ 授業担当からの提案が必要。
- ・演習を含めて、総量規制を考えて行く必要がある。

（宿題）総量規制について調査すること。

数学解析（信岡・中本先生）

- ・出席は数回実施、中間アンケートは学生に直接聞いている、学生の成績は上がっている。

20 計画数理（山田）

- ・土木計画論演習の強調版としての内容も含む。
- ・試験の受験者が大幅に増えた。
- ・数理統計 との連続性

21 鋼構造および橋梁工学（横山）

- ・履修者が非常に多い
- ・脱落してゆく人がいるので、丁度人数的にあっている。

22 地震および振動工学（井上）

- ・固有値分解のレポート以降学生は減った。
- ・直感的な図と噴出しを用いた資料を作成して配布の予定
- ・数学の基礎知識について学生の努力不足が散見される。

23 海岸工学（横木）

- ・教科書と板書を利用した授業進行
- ・問題を理解してそれを解くテクニックが重要である。

24 基礎環境地盤工学（小峯）

- ・モール円の理論展開については例年の試験出題事項として周知している。
- ・テクニカルタームを輪唱させている。指して、前回の授業内容を復習させている。
- ・過去問を要求する学生がいる。大学院の受験でも過去問のみ学習したと応える学生がいる。
- ・金曜日 1 コマから水曜日に移動 高専の学生が受けられないため。

25 空間設計（小柳）

- ・編入生の履修に課題がある。
- ・部分的に教育目標を達成していない学生がいる。

< 議論内容 >

- ・(レポート+試験)で成績評価を行う場合には、総合評価で合格最低点の人の答案を入れる。

26 建築学概論(寺内)

- ・建築学概論の社会的目標を設定しにくい。建築史を網羅している。
- ・来年度は教科書を変えて内容を一新する。

< 議論内容 >

- ・建築学科の内容を教えるのか、境界部分の内容を教えるのか、をはっきりさせる。都市システムとの接点
- ・建築士の資格試験の科目として

27 生態学(沼尾・園田)

- ・資料は、園田先生が全て作成している。
- ・中間アンケート・最終アンケート時にかなり学生評価が辛らつであったようだ

28 都市システム工学トピックス , (沼尾)

- ・外部講師を招聘する授業
- ・成績評価はレポートで行った。
- ・講義内容に従い、教育目標を割り振って評価を行った。

29 都市システム工学実験 (横木)

- ・個人面接を積極的に行った。

30 都市システム設計演習 (金)

- ・来年度はテーマと体制を全て変えて演習を再構成する予定である。

31 コンクリート工学(福澤)

- ・特に質問なし。

32 土木行政(小峯)

- ・4名(田坂先生+学科教員)で授業を担当
- ・学生の評点が非常に良い。
- ・教室の利用において再考の余地がある(ディスカッション用のための部屋)
- ・大学院進学内定者に授業を推奨する必要性。

33 建築構造設計(沼尾)

- ・就職、研究室の行事などで、4年生の出席は非常に厳しい現実がある。この点からシラバスに記載した通りの評価は困難であった。
- ・昨年の授業履修者のうち、5名の2級建築士合格者が出た。

